

広島大学学術情報リポジトリ

Hiroshima University Institutional Repository

Title	女性に関することわざと現代の女性
Author(s)	アジタ シンデ ,
Citation	日本語・日本文化研修プログラム研修レポート集 , 15期 : 1 - 16
Issue Date	2001-03-31
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00038899
Right	
Relation	



女性に関することわざと現代の女性

アジタ・シンデ

はじめに

ことわざは人間の生活体験から生み出されたもので、広く世人に支持され、長く世に伝えられて来ました。数えきれないほどの言葉の中には朝生まれ夕に消えていくものも多いのに、ことわざは今も私達の暮らしの中に生きています。

以下、女に関することわざを分類し、ことわざとその説明をまとめました。男性から女性を見て女性に付いて表現している、という印象を受けることわざが多いと思います。つまり、ことわざにおける視点の中心が女性ではなく男性にあるのではないかと思うものが多いということです。今日にも通じる普遍的なものもありますが、この考え方は古いのではないかと思います。

1

男性の立場から女性を見下していると思えるもの。女は知恵がなく馬鹿なものだ、と決めつけている。賢い女の存在を認めず、子供と同様に扱うことで、一番賢いのは男だ、と言っているようなことわざ。

女の話は一里限り

：女は話題の範囲が狭く限定されていることをいう。

女子の言用う可からず

：見識のない女性や子供のことばをとりあげてはならない。

類句：

* 女の知恵は鼻の先。

女の賢いのと東の空明かりとは当てにならぬ

：東の空が明るくても晴天になるあてがないのと同じく、女が賢くてもあてにならない。

女わらべの言う事用うべからず

：考えの浅い、女や子供のことばに迷ってはならないということ。

女は会釈に余れ

：女は大いに腰を低くしておじぎをするのが良い。

女の知恵は鼻の先

：女は目先のことしか見ず、遠い将来を考えないということ。

類句：

- * 女の鼻の思案。
- * 女の利発牛の一散。
- * 女の猿知恵。
- * 女の知恵は後へまわる。
- * 女の利口より男の馬鹿。
- * 女賢しうして牛売り損なう。
- * 女料簡。
- * 女分別。
- * 女が口を叩けば牛の値がさがる。
- * 女の言うこと用うべからず。

悪妻は百年の不作

：悪い妻を持つと自分一人だけではなく、子孫の代にまで悪い結果を残すということ。悪い女と一緒にした男の不運をかこったことば。

類句：

- * 悪妻は六十年の不作。
- * 悪妻は一生の不作。
- * 悪妻は家の破滅。
- * 悪妻にまさる不幸なし。

女に白い歯は見せられぬ

：(白い歯は笑った時に見える歯のこと) 優しい笑顔を見せると、つけあがって男をあなどるから、見せてはいけないということ。

類句：

- * 女と子供には白い歯を見せるな。

女賢しくて牛売り損なう

：女の利口なのは目先にとられるため、大局を見失い、多くは事を仕損じる。牛を売るときに、少しでも高く売ろうとして、横から口を出して「この牛には欠点がない」と言

えば、買い手はこれに刺激されて足の傷を発見したりする。

類句：

- * 女の賢いのと東の空明りとは当てにならぬ。
- * 女の発明で牛の値が下がる。
- * 女が口を叩けばうしの値が下がる。
- * 女の知恵は鼻の先。
- * 女の猿知恵。
- * 女の知恵は場限り
- * 女の利口より男馬鹿。

女の知恵は後へ回る

：女の知恵は浅はかで回り方が遅く、事柄が終わったあとに出る。

類句：

- * 女の猿知恵。

女の力と首のない石仏

：使い道がなく、役に立たないもののたとえ。

女の腕まくりと朝雨には驚くな

：女が腕をまくって脅してもこわくないし、朝雨もすぐ晴れるので、ともに驚くにあたらないことを言う。

傾城の千枚起請

：遊び女が金になる客には幾人にも真実を誓って起請文を渡すこと。あてにならない、信用できないもののたとえ。

女の商談と七の段は割り切れず

：七のつく数が割り切れないように、女の商談は決断が遅い。

女の張る弓は射られず

：女は邪念が多いので、女の張った弓では的に射当てることができないの意。

女の目には鈴を張れ

：女の目は鈴のように、丸く大きいのがよい。

女の湯巻きと世間の付き合いは狭いが良い

：ともに費用を節約することができることをいったもの。

女は人間を左右にせよ

：「ひとあい」は、人とのつきあい。女は誰に対しても愛想をよくしなければいけない。

女の手から物を取った出家は五百生の間手のない者に生まれる

：僧が女の手から直接物を受け取ってはならないということ。

女三人あれば身代がつぶれる

：娘が三人あれば、娘入り支度の為に財産がすっからかんになる。たいていの娘は努めて娘入り支度の一部をかせぐが、とても追いつくものではない。

類句：

* 娘三人持てば身代つぶす

* 女の子三人あれば囲炉裏の灰もなくなる。

* 女三人は一身代

2

以下のことわざは女のずるさを言っている。このようなずるさは現在にも残っているのではないかと思う。現在の女性も、全てではないが、いろいろなことを考えながら、かけひきしているのではないだろうか。

いやじゃいやじゃは女の癖

：女は心ではOKの時でも、口ではいいと言わないで、いやを連発するものだ。

いやと頭を縦に振る

：表面と内実と反対のことにいう。女は心で何かを求めているも、まただれかを好いていても、口では「いらないよ」とか「きらいだ」とか言う。

類句：

* いやいや嬉しい。

* 娘はイエスと言う意でノーと言う。

女の夫をたばかるには男の知恵には増す

：女が夫をだます時は男以上の知恵を動かす。女が夫をだます時は上手なことを言う。

女は敷居をまたきながらも七十企み

：女はいつもあれこれと知恵をめぐらすということ。

女郎の空泣き

：遊女が客の前で悲しくもないのに涙を流して客をだますこと。

類句：

- * 女郎の嘘泣き。
- * 女郎の空起請。
- * 傾城の空涙。

女の怖がると猫の寒がるはうそ

：ともによく見せる動作だが、内心とちがうことがある。

女の知恵は欲が元

：女の考えは欲が先に立つ。

女は地獄の使い

：女はやさしい姿をしているけれども、男を迷わし僧をすら破滅されることがあるところからいう。

七人の子はなすとも女に心許すな

：七人の子供までもうけて夫婦仲であろうとも、女と言うものに気を許してはならない。
永年一緒に暮らした妻にも油断してはならないということ。

類句：

- * 七人の子を生むとも女に心許すな。
- * 女は死んでも信ずな。
- * 女に大事は明かされぬ。

悪女の賢者ぶり

：性質の良くない女が利口ぶり、外見を装うことで、鼻持ちならない偽善を言う。

愛の道には女賢しい

：人を愛をすると男より女のほうが判断力があってしっかりしている。また男よりもはかりごとがたくみで機転がきく。

金の切れ目が縁の切れ目

：金銭のなくなった時が関係の切れる時。遊客と遊び女、顧客と商人などの一見親しそうな関係も、実はそれは金銭の利害損得によるものであって、それ以上の金銭の見込みがないとなると、あっさりとそれまでの関係を絶ってしまうということ。

類句：

- * 愛想尽かしは金から起きる。
- * 金のないのは首のないのに劣る。

男は上恋、女は下恋

：男は身分の高い女に恋し、女はいやしい男に恋することをいう。

3

女の習慣や、特性を言っている。話し好きであったり、服を大切にしている、と言う点は、現在も多く女性にあてはまると思う。結婚して色気がなくなる、と言う話しもよく耳にすることであるし、心が変化しやすい、ということもよくあることではないだろうか！また女の方が執念深いというのも言えると思う。

愚痴は女の常

：女はよく愚痴をいうものである。

女は口さがないもの

：女は話をする時、うわさ話とか、他人のことをあれこれ口うるさく批評するのが好きである。

女同士は、角目立つ

：女は心が狭いため互いに争い合うことが多い。

女の仕返しは三層倍

：男にだまされた女は、何倍にもして仕返しをするの意。

女の一念岩をも透す

：女は決心の固いものだということ。また、執念深いものだということ。子を抱えて妻と

別れた男は子を養いかねるが、夫と別れた女が子を立派に育てるのを見ても分かる。

女心と秋空

：女心は秋の空のように変わりやすい。愛情のさめやすさと移り気をいうことば。

類句：

- * 女の心は猫の目。
- * 秋の日和と女の心、日に七度変わる。
- * 女心と秋の空、変わりますぞえ日に三度。
- * 女性は風のように気が変わる。

女三人寄れば姦しい

：「女」と言う字を三つあわせると「姦（やかましい）の意」と言う字になるところから女が三人集まると、おしゃべりだから大変うるさい。

女三人寄れば着物のうわさする

：おんなが三人も集まれば、最も関心のある着物の話をすぐしたがる。

女の心は女知る

：女独特の微妙な心理は、女でなければわからない。

類句：

- * 女は相見互い。

女の心は猫の眼

：くるくる変わりやすい猫の眼に女心をたとえたもの。

女の腰と猫の鼻はいつも冷たい

：女の腰部が冷えやすいところからきたたとえ。

類句：

- * 女の尻と鍋の尻は冷たいもの。
- * 男の膝頭と女の尻はいつも冷たい。

女の寒いと猫のひだるいは手の業

：女が寒がるのと、猫が空腹がるのはいつものことだと言う意。

女の尻と猫の鼻は土用三日あたたかい

：ふだん冷たいものでも、さすがに暑い最中は暖まる。

女は水性

：女は水の流れのように移り気で浮気な性質であるということ。

女に十二の角あり

：女には嫉妬の十二本の角があり、一人子を生むと一本抜け、十二人生むと角がまったく無くなって嫉妬心もなくなると言うこと。

女と白魚は子持ちになつては食えない

：子持ちの白魚がまずいように、女も子持ちになると、忙しさにかまけて色気がなくなり、味気ないものである。

女はしつとに大事を漏らす

：女はしつとからどんな大切な秘密でも話してしまう。

女は着物が命から二番目

：女が着物に愛着を持ち大切にするをいう。

女の立ち話騒動の元

：女のうわさの話から、隣近所中のさわぎになると言うこと。

女の情けにへびが住む

：女の本性にはへびのような執念深さがひそんでいる。

類句：

* 女のねしょう・こんじょうは蛇の下地。

女は一月四十五日あり

：女は多忙なため、一か月が一か月半にも当たる。

女の長尻

：女が長話のためいつまでもすわりこんで帰らないこと。

女は相見互い

：女には女でなければ分からない悩みや苦しみがあるので、互いに同情し合えるものであ

る。女は同じ条件を持つ同性として互いに協力し合うものである。

類句：

* 女は女同士。

4

女が原因で国や家庭が乱れる、とあるが、逆に男は女の魅力に弱い、ということであると思う。現在でも、男性が女性にふり回されることは多いと思うが、その逆も充分考えられると思う。

女のえくぼには城を傾く

：君主が女色におぼれて、国を滅ぼすことをいう。

類句：

* 女は乱の基。

女の足駄にて作れる笛には秋の鹿寄る

：女の魅力には、どんな男でもひきつけられると言うことのとたとえ。

女の髪の毛には大象もつながる

：女の、男をひきつける力の強いことのとたとえ。

女は乱の基

：女が原因で国や家が乱れやすいことをいう。

家の乱れは女から

：家庭が乱れるのは女性が原因である。

女は国のたいらげ

：女によって世の中がおだやかで楽しく、円滑にいくことをいう。

女ならではの夜が明けぬ

：女性がいないと何事もうまく進行しないことを言う。

女は門開き

：女は縁起がいいものであるということ。

女は魔物

：女は男を迷わせ破滅させる魔力を持った悪魔のような存在であるの意。

類句：

* 女は地獄の使い。

5

以下のことわざは女は化粧などによって化けてしまうことを言っている。これは現在でも言うことができる。また、外見が悪くても、それを補う努力をするというのもあてはまるだろう。女らしい人がより好まれるというのもいえる。

女は衣装髪形

：女は衣装や髪形によって、美しく見えたり、劣って見えたりする。女は髪や衣装を良くすることが大切だ。

類句：

* 女は髪頭。

女は己れを喜ぶ者の為に容づくる。

：女は自分を愛してくれる人の為に顔や姿を美しくしようと努力する。

女性もリンネル地もろうそくの光の下では選ぶな

：暗いところでは欠点も目立たず、実際より美しく見えるものである。また嫁選びは相手をよく確かめて吟味しないと後悔をすることになると言うこと。

女は化け物

：女が化粧によって顔だち・年齢などを見間違えるほど変わることをいう。

女見るなら忙しい時に見よ

：女は、忙しい時に見れば、かざってない本当のすがたを見ることができるということ。

悪妻の深情け

：ここで言う悪妻とは顔の美しくない女のこと。顔かたちが美しくないことを自覚している女は、その故か、愛情が強い。

悪妻は鏡を疎む

：だれでも自分の弱みにふれることは好まないことの例え。顔のみにくい女は鏡を見るこ

とを嫌う。

類句：

* 悪妻は鏡を恐る。

女の堅いはひざ頭ばかり

：女の品行が意外に崩れやすいことを言う。

女の気の強いのと葉汁の強いのは悪い

：ともにあくが強くてきらわれるものである。

女とかつおぶし堅きほど良し

：女の品行の堅いことをすすめるためのことば。

女と米の飯は白いほど良い

：女の色白なのをほめることば。

女は愛敬、男は度胸

：男には度胸、女には愛敬が大切だの意。

6

以下のことわざを見て私が思ったのは、女は男に従って、男にたよって生きていかなければならない、たよらなければ生きていけない、というのは、現在の世の中にはあてはまらないと言うことだ。現在は女性の社会進出が進み、家庭で夫の帰りを待つことが、嫁の役割ではなくなってきている。女性は男性と同等になってきている。

女は氏無くて玉の輿に乗る

：女は低い身分に生まれても、家柄が低くても家が貧しくても、富貴の人に縁づけばたちまち金持ちや貴い地位にのぼることができるということ。

類句：

* 氏無くして玉の輿。

女性の全生活は愛情の歴史である

：女性は一生愛情を求めて生きるの意。

夫に付くが女の道

：結婚したら夫に従うのが女のとるべき道であるという意。

類句：

* 夫に付くが女の習い。

男は内を言わず、女は外を言わず

：男は家庭のことに口をださずすべて妻にまかせて外で働き、妻は家事に専念して外での夫の仕事に対して一切口出さないのがよいという意。

女は下げて育てよ

：質素な家に嫁にいても不満に思わないよう、女の子は家柄より低めに育てるのがよい。

女は三従

：女は、未成年の時は父に従い、嫁しては夫に従い、老いては子に従うものである。

類句：

* 女は若き時は親に従い、人にゆきては夫に従い、夫死して子に従う。

女と坊主は七国巡る

：女と坊主には定住の地がないことを言う。

女と俎板はなければ叶わぬ

：女は家庭に、俎板は炊事になければならない。

女に七去あり

：妻には一方的に離別されても仕方がない七つの場合があるということ。

女は亭主次第

：女性の地位はだんなによるということ。

女は三界に家無し

：(「三界」は仏語で、欲界、色界、無色界です。)

女はこの広い世界で、どこにも安住できるところがない。女は生家にいる時には父に従い、嫁に行っては夫に従い、年をとると子に従うものであるから、主となることがない。

類句：

* 女に家無し。

* 女に定まる家無し。

- * 女は百まで家もたず。
- * 女の身は三界に家無し。

男は松、女は藤

：松に藤がからまるように、女は男に頼りすぎて生活すべきものであるの意。

世界に余った女は無い

：どんな女でもそれぞれ似合いのつれあいを持つということ。

類句：

- * 女と坊主に余り物がない。

女は一生の苦楽を他人に依る

：女は親・夫・子に頼るから、一生の苦楽はみな他人に依存しなければならないの意。

類句：

- * 女は百年の苦楽他人に依る。

女と塩物にすたりはない

：塩づけにした魚が便利がられるように、女はもらい手に事欠かない。

類句：

- * 女にすたりはない。

女と坊主に余り物がない

：僧の務めが絶えないように、女は相手に困らない。

類句：

- * 女と坊主にすたり物はない。
- * 女と塩物にすたりはない。
- * 女にすたりなし。

女に五障三従あり

：女は生まれつき五障と三従を身に備えているということ。

女の旅は十里を出です

：昔、種々の制約から女が長距離の旅ができなかったことを言う。

女やもめに花が咲く

：女が末亡人になると、かえって身の回りがきれいになり、男たちからももてはやされる。

女の供は年寄りの役

：若い男が女の供をすると、誤解されやすいのでいう。

女は会釈に余れ

：女は大いに腰を低くしておじぎをするのが良い。

女に袴、男に振り袖

：まったく似合わないことのたとえ。

7

子供を持った母親が、強くなるのは、いつの時代も同じであろう。しかし現在では子を愛すことのできない母親もいるが、基本的に母親のこどもに対するパワーははかり知らないものがあると思う。

女の子は女に付く

：夫婦が離婚する場合、女の子は母が引き取る定めであった事を言う。女の子は母に従う。

女は母親の育て柄

：女の子は母親の育て方でよくも悪くもなるの意。

女は弱しされど母は強し

：子供を守ろうとする母親の強さをいったもの。

女七部に男三部

：家庭での子供への感化力は母の方が父より強い。

おわりに

分析を通して思ったことは女に関することわざはだいたい三つに分けられるということです。一つは、時代を感じさせる、女は男に従うものという少々反発したくなるようなことわざです。昔の女性は男性に比べ、とても低い身分として扱われていたことが感じられます。

例えば：

夫に付くが女の道

男は松、女は藤

女は三従

女は男に従って、男によって生きていかなければならない、たよらなければ生きていけない、というのは、現在ではとても言えないことです。現在は女性の社会進出が進み、家庭で夫の帰りを待つことが、妻の役割ではなくなってきました。女性は男性と同等になってきているのです。

二つめは女の誘惑に関するものです。

例えば：

女は魔物

女のえくぼには城を傾く

女は地獄の使い

恋愛において、昔の女性は悪者にされやすいということを感じます。現在はもし、恋により何か事件が起っても昔のように女の人がすぐ悪いと言うようにはならないと思います。ただ、昔の女性も今の女性も恋愛では男性より積極的で一生懸命なのは共通していると思います。

例えば：

愛の道には女賢しい。

三つめは、今の女性に共通すると感じられることわざです。

例えば：

女三人寄れば姦しい

女三人寄れば着物のうわさをする

女は口さがないもの

女の立ち話騒動の元

昔から女性のおしゃべりは有名でその内容はうわさ話か、ファッションのこと。これは今の女性も変わらないと思います。テレビではワイドショーが、雑誌では女性向けのファッション誌が数多いことから、今も昔も女性はどうも話とおしゃべりには興味を持っていると感じられます。おしゃべりなのも女性の特徴として今の女性にも共通していると思います。

そして、女性が子を持つと強くなること。子が母親に強い影響を受けると言うようなことは、国や時代に関係なく、変わらないのです。

例え：

女は母親の育て方
女は弱しされど母は強し
女の子は女に付く
この三つのことわざは、日本以外の国にも存在するものなのではないでしょうか。

参考文献：

- 1 尚学図書編集 『故事俗事ことわざ大事典』、小学館、1982
- 2 Ukida Saburo, A Contrastive Study on the Proverbs Related to Learning in Japanese and Modern Greek, *Intercultural Communication Studies*, VII-2, 1997-8